

石路の里の人手不足に外国人材は役立つのか



令和6年度

開園し42年目

旧身体障害者療護施設

現在は18歳以上の

精神・知的・身体障害者が対象です

法人沿革

- 1980年11月 社会福祉法人光輪会設立
- 1981年10月 身体障害者療護施設石路の里開設50床
(現在障害者支援施設石路の里施設入所50・生活介護60)
- 1987年 4月 重度身体障害者短期入所事業開始5床
- 1995年 8月 身体障害者通所事業B型開始
- 2004年 4月 認知症高齢者グループホームⅠ号館開所9床
- 2007年 4月 障害者相談支援事業開始
- 2009年 4月 障害者ケアホームつわぶきの家開所10床
(現在障害者グループホームつわぶきの家)
- 2013年 4月 認知症高齢者グループホームⅡ号館開所9床

我々社会福祉法人光輪会が目指す介護の流儀

365ゼロゼロ作戦始動中

1 オムツ0をめざします

1 口から食べる幸せを守る、口から食べることを絶対に0にしないを目指します

1 プライバシーに配慮した365日入浴、毎日ピッカピカな利用者様を目指します

我々社会福祉法人光輪会は
ノーリフティングケアの法人です

- 1 利用者様・スタッフの安心・安楽・安全を実現
- 1 ケアの質の向上 → 褥瘡・拘縮予防
- 1 持ち上げない・抱え上げない・引きずらない



全居室に天井式リフター設置



ベッドからリフターを使い移乗



利用者様ハンモックの中と同じ状態



利用者様もケアスタッフも負担なく車椅子へ



個室浴槽へリフターを使い移動



利用者様もケアスタッフも安心・安全・安楽







リフターで移動利用者様もケアスタッフもやっぱり安全・安心・安楽



三者共に喜ぶ仕事を

利用者様・働く職員・法人にとって良いことを実践していく

利用者様だけでもダメ

職員だけでもダメ

法人だけでもダメ



地域がら生産人口の減少により

求人をしてても募集が無い

退職者の補充がままならない

有料広告も掲載するが募集無

人材派遣会社にも地域希望者無

但し

無資格・未経験者のスタッフが定着している

実務者研修を補助金にて受講できる環境があり、職員受講し介護福祉士に合格者13名

3年前から計画で

外国人労働者雇用しか生き残る道はないと覚悟を決める

失敗を恐れず良い送り出し機関とのご縁を探す

技能実習生・特定技能(日本に在住者・外国の在住者)どれも雇用してみることに

外国人採用 10名 (特定6名 技能4名)

2022年6月 技能実習生3年終了者 介護の特定技能者ベトナム人男性1名採用

7月 介護専門学校卒業生 介護の特定技能者ベトナム人男性1名採用

8月 ネパールから介護の特定技能者取得者女性2名採用

2023年2月 技能実習生3年終了者 介護特定技能者ベトナム男性1名採用

3月 ミャンマー技能実習生女性2名採用

4月 技能実習生3年終了者 介護特定技能者中国男性1名採用

8月 ミャンマー技能実習生女性2名採用

2024年 1月現在 8名 (特定4名 技能4名)

2名が退職した

Aさん 入職11カ月後 結婚の為退職 (2023年5月)

Bさん 入職8カ月後 神奈川県施設に転職 (2023年10月)

反省点

Aさん 妊娠・結婚の可能性を考えていなかった事

介護福祉士の資格取得より技・人・国のビザの相手との結婚が本人にとって確実な道であった

Bさん 認知症Gホームでの業務で一人夜勤の為、育成に時間を要し、本人の満足する収入に達していなかった

業務目標の設定と業務スキルの可視化の説明不足と、我々と本人の価値観のミスマッチが原因かと

どう育成・定着させるか

基本は、日本人も外国人も一緒

介護に向くか向かないかが最大のポイント

介護好きなら大丈夫

文化・習慣の違いは時間と信頼関係の構築で乗り切れる

うそ偽りなく正直な気持ちで相手に接するしかない

外国の方を通して、自分たちが学ぶ姿勢、自分たちの成長につなげる思いが大切

不足している労働力の穴埋めではないことを、最初から意識しておく

我々の大切な仲間であることを肝に命じる

実務者研修を当施設にて開催(R5年8月～R6年1月)

- ★ 特定技能4名と日本人1名にて開講
- ★ 通信講座eラーニングは、内容を理解し回答するのは難しいと思える
専門用語が理解できない
教科書にはひらがな表記がしてあるが、eラーニングにはない
仕事をしながら教科書を全て読破してeラーニングをすることは不可能
何回か繰り返し、eラーニングをやると答えを覚えクリアーすることは出来る
演習が始まるまでのタイムリミットがある為、消化することを優先させた
- ★ 介護課程演習
日頃一緒に仕事している指導員が講師の為、相手の日本語のレベルに合わせた授業が出来た
専門用語は、やはり母国語もしくは英語に変換し伝えないと理解できない
介護課程の内容を、実際の施設の利用者様を想定して実施できるともう少し深く理解出来ると思える

- ★ 医療的ケア演習は実技が主なため、手技を繰り返し練習することで体で覚えられた（痰吸引・経管栄養・救急蘇生法）
- ★ 痰吸引・経管栄養等の備品には、振り仮名を振った

まとめ

入職6カ月～1年2カ月で実務者研修を受講させたのは、かなり内容が難しかったとの事。しかし、介護福祉士の試験を受けるには専門用語を理解し、教材を勉強しなければ受からない、その現実が分かったので、本人たちは早く受講して良かったとの事でした。

直接の試験対策には結びつかなかったが、怖いもの知らずのまま2・3年仕事をしながら過ごすより、ピリッと身が引き締まったのではないのでしょうか。

5年間の特定技能在留期間での、日々の時間の過ごし方が変わってくると思います。毎日コツコツ疲れてるけど、勉強しなければ国に帰らなければならなくなる事を、感じてくれたはずです。

現在は夜勤勤務実働(特定技能4名)

- ★ 夜勤勤務迄8ヶ月～10ヵ月を要した
- ★ 記録が難しい
- ★ 観察したことを日本語としてどう書けば良いか分からない
- ★ 定型文を作成しそれから選び、微調整させる
- ★ 少人数で夜勤する為、人間関係の悩みが出てきた
- ★ 給料が上がるので、夜勤は多い方がいい
- ★ やらせてみて、出来ないことを出来るように
- ★ 出来るようになって次の段階も大切だが、やらせるが得策かもと感じている
- ★ 障害者の介護が、外国人にとって特に難しいとは感じない

外国の方でも特に問題は無く介護現場で働いていけると感じています

人手不足の解消に外国人スタッフは
欠かせない存在になっている
が
コストがかかる